



SiEN

秋号

臨床美術の先生による作品(P.3 参照)



今年のなぎのバス旅行、ひたち海浜公園へ行ってきました。ステキな思い出となりますように……P4 参照

「人間は考える葦である」

地域活動支援センターなぎ 所長 石川誓子

私は電車通勤することが多いのですが、電車といえば、最近スマホをもつ人が本場に多いですね。音楽を聴いたり、ゲームをしたり、ラインをしたり、好きな音楽、好きな人、好きなゲームですから、スマホをみて笑っている人はいるけれど、難しい顔の人はあまりいません。私も例外ではないですが、時々画面から目を離し、ぼくっと周囲をみたりすることをしています。お年寄りに席を譲る若い人の行動をみると、「日本もまだまだ捨てたものじゃないな」と嬉しくなったり、車窓に虹やきれいな夕日が見えると、嫌なことでも「まあいいか」と思えたりするので、なかなか心地がよいものです。もちろんその逆で、スマホだけを見て、お年寄りにまったく気づかず座り続ける人、子どもが泣いてあやす母親への冷たい視線、混んでいるのに平気でベビーカーを押し込んでくる夫婦、そんな思いやりのない光景に気が滅入ることもあります。スマホばかりがいいのか、いけないのか、どちらがいいのでしょうか。自分の好きなものだけを与えてくれるスマホはある意味安心で心地が良いものですが（時に変な画像や言葉が送られてきたりもしますが）、ただそのスマホを使う時間の分だけ、考えたり、悩んだり、想像したり、また他人に配慮する機会を少なくしているように思います。そしてそのことは人として大事なことになるのではないのでしょうか？

さて、暑い夏も終わり、過ぎしやすい秋がやってきます。哲学者パスカルが残した有名な言葉「人間は考える葦である」について、秋の夜長にちょっと考えてみてはいかがでしょうか？